

公賢集

蛩

ほしのかげほたるのひかりおしなべて  
わかちかねたる水のうへかな

夕ぐれはたまえのあしに風すぎて  
いとどほたるのかげぞみだるる

いたづらにのさわにもゆるほたるかな  
など我がまどをてらむぢるらん

よもすがら風にみだるるほたるかな  
草葉の露にかげもとどめで

よもすがらもゆるほたるのなごりゆゑ  
あくるはをしき夏のそらかな

ひさかたの空にしられぬひかりもて  
いかでほたるのよをてらすらん

さはべなるくさのした葉やくちぬらん  
ほたるとぶなり夏のくれがた

蛭

はかなくも風にみだるる蛭かな  
草葉の露にかげもとどめで

夜灯

蛍にやかへて見るべきまなぶねど

猶かげくらきまどのともし火

蛍秋近

ほたるとびすずしきやどはあしがきの

へだてばかりに秋やなりぬる

夏曙

山のはのしらむ程より庭のおもの

ほたるのかげぞうすく成行く